

H28 シカ年度エゾシカ捕獲事業(遺産地域) 案

A. 知床岬地区

A-1. 方針

- ・H28 シカ年度は、海明け後に基本的に宿泊で朝夕の時間帯に集中してシカの捕獲を行う。
- ・H26 シカ年度と H27 シカ年度の航空カウント結果および捕獲結果の比較から、積雪深が不十分な年は、仕切柵内に採食のため集まるシカが少ないことが予想されることから、高コストかつ安全上のリスクが高いヘリコプターを移動手段とした厳冬期の宿泊捕獲は見送る。

A-2. 捕獲事業内容案

①. 無積雪期 船捕獲(小規模隊 2~3泊) 2~3回 (H27シカ年度と同じパターン)

- 期間: 4~6月に2~3回。1回2~3泊程度
 - 人員規模: 5人程度 + 犬
 - 実施方法: 草原上狙撃、林縁・森林内待ち伏せ猟
犬による仕切柵を利用した追い込み
 - 特記事項 トレッカーや漁業者に対する安全対策
- *死体回収は、後日船により人員規模10名程度・日帰りで実施。

A-3. 今後の検討課題

- 羅臼側カブト岩方面での捕獲作業の進め方(捕獲手法、上陸経路、宿泊場所など)
- 予測外の多雪年に厳冬期ヘリ宿泊捕獲の緊急的追加実施は可能か(航空カウント調査用ヘリの捕獲従事者運搬用ヘリへのスムーズな移行および現地宿泊場所の確保)

B. ルサー相泊地区

B-1. 方針

- ・H28 シカ年度も囲いわなと流し猟式SSを併用。
- ・相泊囲いわなは同じ場所に再設置する。ルサー囲いわなは残置されているため、今年度も修繕後に稼働させる。
- ・流し猟式SSは12月上旬から餌づけを実施するが、1月および3月中旬~4月を重点実施期間とする。シカが高標高の風衝地に移動し、気象条件に起因する道路の通行止めも多発する2月~3月上旬は、状況により餌づけおよび捕獲を休止する。

B-2. 捕獲事業内容案

①. 囲いわなによる捕獲(既設1・再設置1)

- 期間： 相泊は12月に再設置
12月～馴致・餌づけ。
12月下旬～3月末まで捕獲(ルサはヒグマに注意しつつ4月末まで継続)
- 実施候補地： ルサ川左岸(既設)、アイドマリ川河口付近 (再設置)。

②. 流し猟式 SS

- 期間： 12月上旬～餌づけ
1月中旬～4月末に週1回程度捕獲(1月末まで行われる、相泊での法面工事との調整要)
※2月～3月上旬に捕獲効率が低下した場合は、餌づけと捕獲を休止する。
- 実施候補地： 道道知床公園羅臼線沿い(北浜～相泊間約7km：H24-27シカ年度と同様)。
- 検討事項等： 餌づけおよび捕獲の休止の判断基準の明確化(餌づけ誘引作業時の全餌場における確認頭数計〇頭以下の状態が〇日以上継続時は休止、など)

B-3. 今後の検討課題

- 相泊漁港以北の崩浜南部(カモイウンベ川・クズレハマ川付近)での捕獲作業の進め方
- ウナキベツ付近の越冬群と相泊以南の越冬群との冬期間の交流の有無の調査

C. 幌別-岩尾別地区

C-1. 方針

岩尾別

- ・岩尾別川河口に集結する群れの捕獲に重点を置く。囲いわなは設置せず、複数の箱わなと流し猟式シャープシューティングによる捕獲を行う。早い時期(12月上旬)から餌づけを行い、十分な順化期間を設定する。
- ・岩尾別台地海岸沿い(岩尾別河口右岸～仕切柵間)に分布するシカを仕切柵に誘導し捕獲する。餌づけを海岸線沿いの広範囲に行う。シカの逃走経路が海岸の崖沿いに限定されやすい2月の厳冬期に、仕切柵西側エリアを対象に、仕切柵を利用した大規模な巻き狩りを試験的に行う。

幌別

- ・幌別河口囲いわなは、前年度の規模と配置で捕獲を継続する。
- ・プユニ岬(見晴橋付近)の林内に複数の箱わなを設置し、捕獲と作業員の入林による軽度の林内攪乱により幌別河口囲いわな方向へのシカの移動を促す。

C-2. 捕獲事業内容案

岩尾別

①仕切柵を用いた大型囲いわな式捕獲

- 期間： 12～4月
- 実施場所： 岩尾別地区(海岸側ササ地)
- 仕様等： 大面積のササ地を仕切柵で囲い、囲いわなのようにして捕獲。自動落下式ゲートと手動捕獲を組み合わせる。メール送信機能付自動カメラを設置し、捕獲の補助とする。捕獲個体の追い込みにかかる労力を軽減するため、シカが雪に肢をとられやすい厳冬期以外は、死体での搬出を優先する。
- 検討事項等： 仕切柵より西側のエリア(岩尾別河口右岸～仕切柵間)に中規模な群れが残っていることから、広範囲で誘引を行うとともに、試験的な大規模巻き狩りを行うことで、シカを仕切柵へと誘導する。巻き狩りは積雪量が最も多い時期である2月に実施する(シカの逃走経路が崖沿いに限定されるため)。結果次第で次年度以降は仕切柵の改修や、銃器を用いた捕獲を検討する。

②流し猟式SS(積雪期・岩尾別川河口)

- 期間： 1～3月(12月から餌付け、1月から週1回程度捕獲)
- 実施候補地： 岩尾別ふ化場取り付け通路(約0.6km)
- 検討事項等： 使用するライフル銃の口径、性能(対岸斜面林内のシカへの狙撃を想定)

③箱わなによる捕獲(新規・岩尾別川河口)

- 期間： 1～3月(12月から餌付け、SSと並行して実施)
- 実施候補地： 岩尾別ふ化場取り付け通路(約0.6km)沿い
- 検討事項等： 設置する箱わなの数、SSの餌づけ誘引への悪影響の有無

幌別

①囲いわなによる捕獲(再設置1箇所)

- 期間： 12月中に再設置、1月～3月に餌付け・捕獲
- 実施候補地： 幌別川河口(再設置・4年目)
- 検討事項等： 3月下旬の捕獲期間の確保

②箱わなによる捕獲(新規)

- 期間： 1～3月(幌別河口囲いわなより、わざと遅らせて開始する)
- 実施候補地： プユニ岬(見晴橋)付近山側の針葉樹林内2～3箇所
- 検討事項等： 箱わなの維持管理に伴う入林の攪乱を嫌ったシカが幌別河口方面へ狙いどおり移動するか、あるいは箱わな周辺に誘引・定着してしまうか。

C-3. 今後の検討課題

- 岩尾別

- 岩尾別川河口～仕切柵間の海側崖沿いの草原地帯には、越冬個体が数十頭レベルで残存している。仕切柵とSSではこのエリアのシカ群に対して効果的な捕獲圧をかけることができておらず、獲り残した状態になっている。この群れを人為的に攪乱し、東西どちらかの捕獲エリアに移動させる必要がある。
- 仕切柵の構造が巻き狩りの補助として有効かどうか、検証する段階にきている。今シーズンに試験的に巻き狩りを行い、シカの動き等のデータを収集する。ただし、巻き狩りによるスマート化の悪影響が数年間残る恐れがあるため、試験的な巻き狩りであっても十分な人数の射手を動員する必要がある。なお上記の試行の結果によっては、仕切柵を銃猟捕獲に適した構造に改修することも検討する。

●幌別

- フレペの滝～ポロピナイ間の海側崖沿い草原地帯で越冬している群れの捕獲の進め方
- 百平米運動地内での無雪期の捕獲の進め方

表 2-2-1. 平成 28 シカ年度 遺産地域内におけるエゾシカ捕獲事業（案）

		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
			シカ季節移動		← 流水期 積雪十分に →		← 猛禽繁殖期 →		シカ季節移動		
				← 岩尾別～五湖間道道冬期閉鎖 11月下旬～4月下旬 →							
モニタリング		⇔ スポットライトセンサス (秋期集中)			← 航空カウント (半島全域) →			⇔ スポットライトセンサス (春期集中)			
A 知床岬	1. 無積雪期 船・小規模・宿泊 2～3回	⇔ 仕切り柵 補修							⇔ 無雪期・宿泊・船捕獲 2～3回	⇔ 死体回収	
	B ルサ・相泊地区		設計、補修 など	⇔ 馴致・餌付け ⇔ ワナ設置工事		餌付け+捕獲		⇔ アイドマリ川河 口のワナ解体			
	2. 流し猟式SS (北浜～相泊)	← 路上発砲の 関係機関交渉 →		⇔ 馴致・餌付け		餌付け+捕獲 (道道知床公園羅臼線) 週1回程度捕獲		⇔ シカ 道路法面に集中			
C 幌別・岩尾別地区	1. 仕切柵を用いた大型囲いわな式 捕獲 + 試験的巻き狩り (岩尾別)			⇔ 馴致・餌付 ⇔ 改修		餌付け+ 捕獲 巻き狩り		⇔ シカ海食台地縁、道路法面に集中			
	2. 囲いわな + 箱わな (幌別川河口 再設置) (プユニ岬 新規設置)	設置交渉 ワナ設計		⇔ 設置工事 ⇔ 馴致・餌付け		餌付け+ 捕獲 * 捕獲はシカを十分に誘引した上で 10 頭未満の小群をこまめに捕獲する。 → ヒグマの冬眠明けをもって捕獲終了		⇔ 囲いわな解体・箱ワナ撤去			
	3. 積雪期流し猟式SS + 箱わな (岩尾別ふ化場通路)	← 関係機関との調整、協議 →		⇔ 馴致・餌付け		餌付け+ 捕獲		⇔ → ヒグマの冬眠明けをもって捕獲終了 箱わな撤去			